

第120回 ふじのくに防災学講座

- 日 時 令和元年9月14日(土) 10時30分～12時00分
- 会 場 東海大学短期大学部 522 視聴覚教室 (静岡市葵区宮前町 101)

テーマ「南海トラフ巨大地震への政府対応策の課題と最近の当該地域の地震活動変化—内閣府作業部会に参加して—」

講 師 東海大学 教授、海洋研究所 所長 長尾年恭 氏

(講演概要)

2017年12月からそれまでの“東海地震警戒宣言”の代わりに、新たな情報が公表されるようになった。これは、あたかも予知が完全に不可能となったとの印象を与える事になった。しかし予知研究そのものは大きな進展を見せており、地震発生の多様性というものが考慮され、0か1という警戒宣言から、確率予測の概念を取り入れた“南海トラフ地震臨時情報”に変化したのである。講演では、政府が公表する情報の意味や最近の南海トラフ沿いでの地震活動変化を客観的に紹介するとともに、最新の予知研究の成果も合わせて紹介する予定である。

